

家畜の伝染性疾病の発生状況について

農林水産省

令和4年12月

高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況①

令和4年12月7日 8時00分現在

事例数：16道県、27事例（防疫措置対象：29農場 4施設 約408万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）						
発生場所			発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日(0日目)		10日目			21日目	
						防疫措置（殺処分、消毒等）		清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除		
						開始	完了					
①	岡山 1	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 10月28日	約17万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月27日	10月28日 7時00分	11月3日 12時55分	11月18日 終了	11月18日 20時00分	11月25日 00時00分		
②	北海道 1	養鶏場 （北海道厚真町）	令和4年 10月28日	約17万羽 （肉用鶏・平飼い）	10月28日	10月28日 10時30分	11月3日 8時00分	11月19日 終了	11月20日 0時00分	11月25日 00時00分		
③	香川 1	養鶏場 （香川県観音寺市）	令和4年 11月1日	約4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月31日	11月1日 5時00分	11月4日 17時00分	11月19日 終了	11月20日 0時00分			
④	茨城 1	養鶏場 （茨城県かすみがうら市）	令和4年 11月4日	約104万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月3日	11月4日 7時00分	11月22日 18時00分					
⑤	岡山 2	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 11月4日	約51万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月4日 （持ち回り）	11月4日 8時00分	11月18日 13時30分	12月3日 終了	12月3日 17時00分			
⑥	北海道 2	養鶏場 （北海道伊達市）	令和4年 11月7日	約15万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月7日 （持ち回り）	11月7日 14時00分	11月13日 8時00分	11月29日 終了	11月30日 0時00分	12月5日 0時00分		
⑦	岡山 3	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 11月11日	約3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月11日 （持ち回り）	11月11日 7時00分	11月18日 13時30分	12月3日 終了	12月3日 17時00分			
⑧	和歌山 1	家きん飼養施設 （和歌山県白浜町）	令和4年 11月11日	約60羽 （あひる等）	11月11日 （持ち回り）	11月11日 9時20分	11月12日 5時00分	—	11月23日 0時00分	12月4日 0時00分		
⑨	兵庫 1	養鶏場 （兵庫県たつの市）	令和4年 11月13日	約4.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月12日	11月13日 9時00分	11月15日 20時00分	—	11月26日 0時00分			
⑩	鹿児島 1	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 11月18日	約12万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月17日	11月18日 4時00分	11月21日 8時00分					
⑪	新潟 1	養鶏場 （新潟県阿賀町）	令和4年 11月18日	約15万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月17日	11月18日 7時00分	11月24日 12時00分					
⑪' （関連）	新潟 1'	食鳥処理場 （新潟県新発田市）	—	約0.6万羽 （肉用鶏）		11月18日 7時00分	11月18日 22時00分					
⑫	宮崎 1	養鶏場 （宮崎県新富町）	令和4年 11月20日	約16万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月19日 （持ち回り）	11月20日 4時00分	11月22日 18時00分					
⑬	青森 1	養鶏場 （青森県横浜町）	令和4年 11月20日	約12.2万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月20日 （持ち回り）	11月20日 15時00分	11月24日 11時30分					
⑬' （関連）	青森 1'	食鳥処理場 （青森県横浜町）	—	約0.8万羽 （肉用鶏）		11月20日 15時00分	11月21日 16時30分					

※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数
※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

事例数：16道県、27事例（防疫措置対象：29農場 4施設 約408万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）				
発生場所			発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日(0日目)		10日目		
						防疫措置（殺処分、消毒等）		清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了			
⑭	香川 2	養鶏場 （香川県観音寺市）	令和4年 11月22日	約2.4万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月22日 （持ち回り）	11月22日 5時00分	11月26日 18時15分			
⑭' （関連）	香川 2'	養鶏場 （香川県観音寺市）	—	約0.9万羽 （肉用鶏・平飼い）		11月22日 5時00分	11月26日 18時15分			
⑮	香川 3	養鶏場 （香川県観音寺市）	令和4年 11月23日	約1.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月23日 （持ち回り）	11月23日 5時00分	11月26日 18時15分			
⑮' （関連）	香川 3'	養鶏場 （香川県観音寺市）	—	約0.8万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）		11月23日 5時00分	11月26日 18時15分			
⑮' （関連）	香川 3'	養鶏場 （香川県観音寺市）	—	約1.2万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）		11月23日 5時00分	11月26日 18時15分			
⑯	宮城 1	養鶏場 （宮城県気仙沼市）	令和4年 11月23日	約2.1万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月23日 （持ち回り）	11月23日 11時00分	11月24日 20時45分	—	12月5日 0時00分	
⑰	鹿児島 2	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 11月24日	約7万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月24日 （持ち回り）	11月24日 14時00分	11月27日 9時00分			
⑰' （関連）	鹿児島 2'	養鶏場 （鹿児島県出水市）	—	約0.8万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）		11月24日 14時00分	11月27日 9時00分			
⑱	千葉 1	家さん飼養施設 （千葉県香取市）	令和4年 11月26日	約20羽 （あひる（あいがも））	11月26日 （持ち回り）	11月26日 6時00分	11月26日 8時24分	—		
⑲	鹿児島 3	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 11月27日	約47万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月27日 （持ち回り）	11月27日 6時00分				
⑳	福島 1	養鶏場 （福島県伊達市）	令和4年 11月29日	約1.7万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月28日	11月29日 6時00分	11月30日 21時50分			
㉑	和歌山 2	養鶏場 （和歌山県和歌山市）	令和4年 11月30日	約4.6万羽 （採卵鶏・平飼い）	11月30日 （持ち回り）	11月30日 7時00分	12月4日 18時30分			
㉒	鳥取 1	養鶏場 （鳥取県鳥取市）	令和4年 12月1日	約11万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月30日	12月1日 5時00分	12月5日 17時00分			
㉓	鹿児島 4	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 12月2日	約12万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月2日 （持ち回り）	12月2日 6時00分	12月5日 4時00分			
㉔	鹿児島 5	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 12月4日	約3.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月4日 （持ち回り）	12月4日 9時00分	12月6日 19時00分			
㉕	愛知 1	養鶏場 （愛知県豊橋市）	令和4年 12月5日	約31万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月4日	12月5日 7時30分				

福島県及び鳥取県での発生は史上初

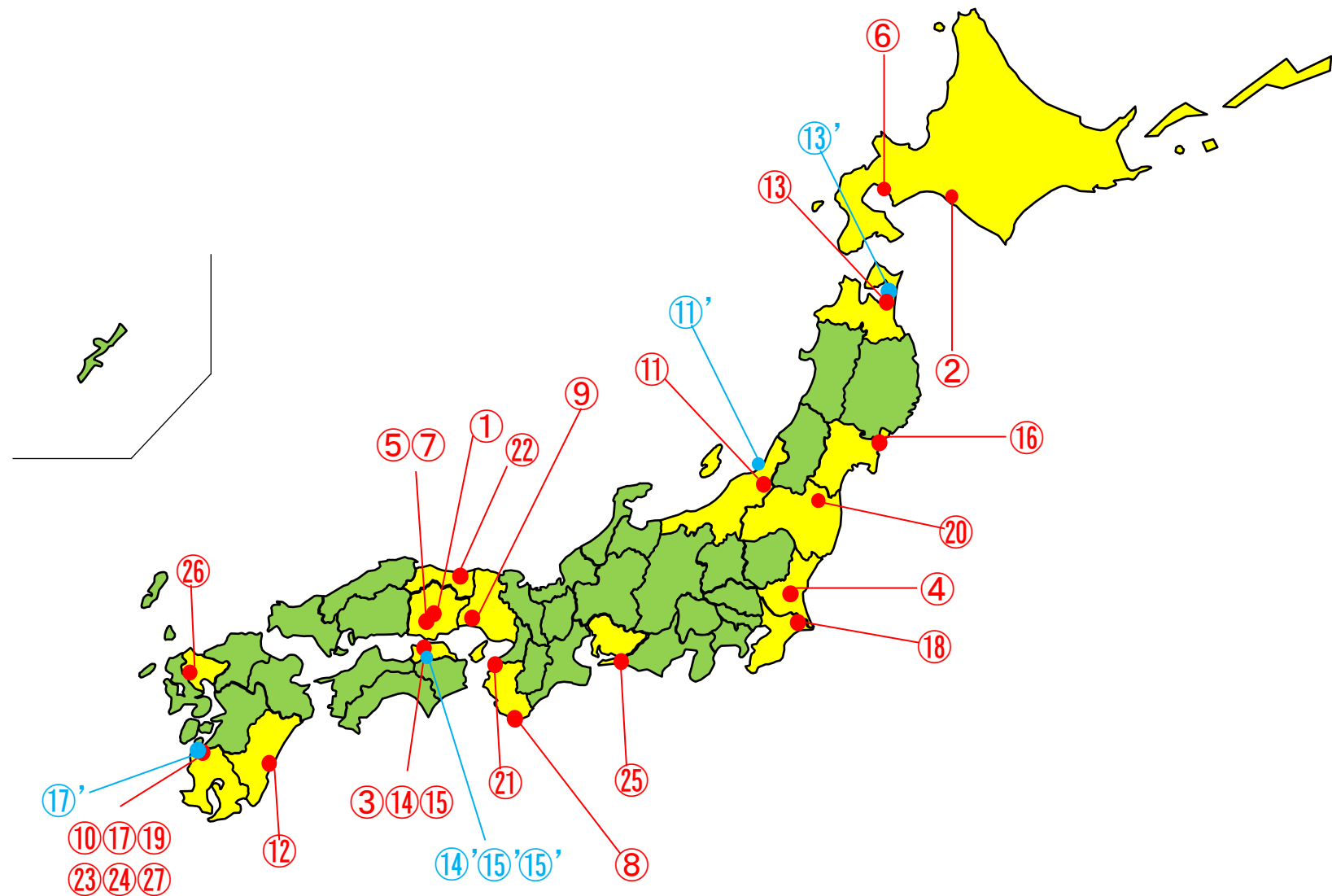
※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

事例数：16道県、27事例（防疫措置対象：29農場 4施設 約408万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）				
発生場所						措置完了日(0日目)		10日目		
						防疫措置（殺処分、消毒等）		清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了			
②⑥	佐賀 1	養鶏場 （佐賀県武雄市）	令和4年 12月6日 ※1	約3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い） ※2、3	12月5日	12月6日 5時00分				
②⑦	鹿児島 6	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 12月7日	約6万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月7日	12月7日 8時00分				

※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数
※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況④



総理指示(10月28日)を受けた対応について

<総理指示> (10月28日)

- ① 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

<対応>

- ① 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 関係省庁(※)と連携し、都道府県が実施する防疫措置（当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等）について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。（また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。）
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等（鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等）を実施。

(※) 関係各省：消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

過去の発生事例～近年の高病原性鳥インフルエンザの発生とその対応

＜平成15年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～3月…3府県4事例 約27万羽（山口県、大分県、京都府）
（※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生）

＜平成18年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～2月…2県4事例 約16万羽（宮崎県、岡山県）

＜平成22年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

11～3月…9県24事例 約183万羽（島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県）

＜平成26年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

4月…1県1事例 約10万羽（熊本県）
12～1月…4県5事例 約35万羽（宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）

＜平成28年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

11～3月…9道県12事例 約166万羽（青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県）

＜平成29年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽（香川県）

＜令和2年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

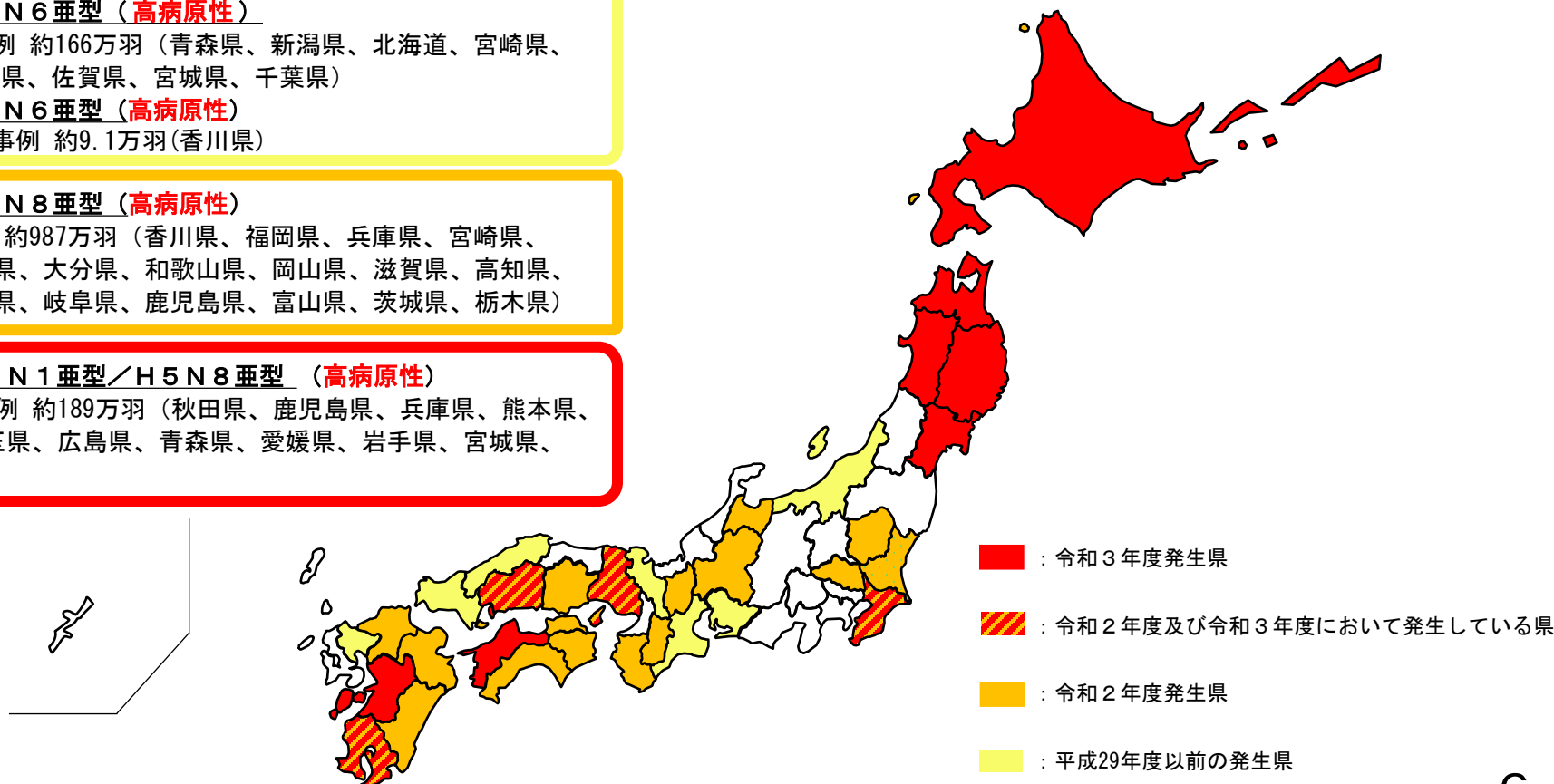
11～3月…18県52事例 約987万羽（香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県）

＜令和3年度の発生＞ H5N1亜型／H5N8亜型（高病原性）

11～5月…12道県25事例 約189万羽（秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道）

※野鳥における発生（高病原性）

- ・平成20年 全3県
- ・平成22～23年 全16県
（他3県における動物園等の飼育鳥からウイルスを確認）
- ・平成26～27年 全6県12例（H5N8型）
- ・平成28～29年 全22都道府県 218例（H5N6型）
- ・平成29～30年 全3都県45例（H5N6型）
- ・令和2～3年 全18道県58例（H5N8型）
- ・令和3～4年 全8道府県107例（H5N1型/ H5N8型）



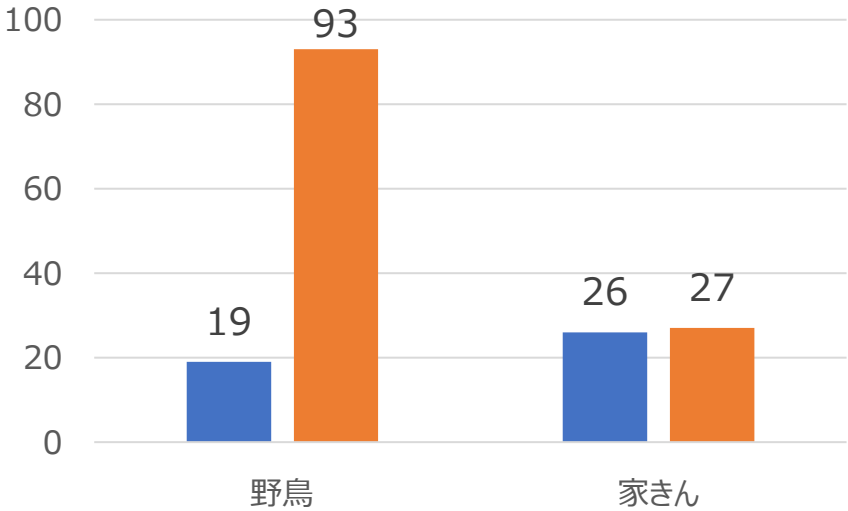
今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの特徴

- 野鳥での感染がこれまでで最も早く（9月25日）確認。専門家は、全国的に環境中のウイルス濃度が高まっていると考えられると指摘。
- 家きんの発生もこれまでで最も早い（10月28日）。発生のペースや殺処分数については令和2年度シーズンを上回って推移。
他方、防疫措置は順調に進捗しており、令和2年シーズンで起きた密集多発・大規模農場での発生による防疫措置の遅れは生じていない。

（1）初発確認日

	R 2 年	R 4 年
野鳥	10月24日	9月25日
家きん	11月5日	10月28日

（2）発生事例数（初発日から40日後の間）



■ R 2 シーズン ■ R 4 シーズン
※殺処分羽数 R 2 : 327万羽、R 4 : 408万羽

（3）R 4 年における防疫措置の進捗状況 ※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

	発生場所	発生日※1	飼養羽数※2	防疫措置に要した時間
①	岡山 1	10月28日	採卵鶏・約17万羽	約6日
②	北海道 1	10月28日	肉用鶏・約17万羽	約6日
③	香川 1	11月1日	採卵鶏・約4万羽	約3.5日
④	茨城 1	11月4日	採卵鶏・約104万羽	約18.5日
⑤	岡山 2	11月4日	採卵鶏・約51万羽	約14日
⑥	北海道 2	11月7日	肉用鶏・約15万羽	約6日
⑦	岡山 3	11月11日	採卵鶏・約3万羽	約7日
⑧	和歌山 1	11月11日	あひる等・約60羽	1日未満
⑨	兵庫 1	11月13日	採卵鶏・約4.4万羽	約2.5日
⑩	鹿児島 1	11月18日	採卵鶏・約12万羽	約3日
⑪	新潟 1	11月18日	肉用鶏・約15万羽	約6日
⑫	宮崎 1	11月20日	採卵鶏・約16万羽	約2.5日
⑬	青森 1	11月20日	肉用鶏・約12.2万羽	約4日
⑭	香川 2	11月22日	肉用鶏・約2.4万羽	約4.5日
⑮	香川 3	11月23日	採卵鶏・約1.4万羽	約3.5日
⑯	宮城 1	11月23日	肉用鶏・約2.1万羽	約1.5日
⑰	鹿児島 2	11月24日	採卵鶏・約7万羽	約3日
⑱	千葉 1	11月26日	あひる・20羽	1日未満
⑲	鹿児島 3	11月27日	採卵鶏・約47万羽	実施中
⑳	福島 1	11月29日	肉用鶏・約1.7万羽	約2日
㉑	和歌山 2	11月30日	採卵鶏・約4.6万羽	約5日
㉒	鳥取 1	12月1日	採卵鶏・約11万羽	約5日
㉓	鹿児島 4	12月2日	採卵鶏・約12万羽	約3日
㉔	鹿児島 5	12月4日	採卵鶏・約3.4万羽	約2.5日
㉕	愛知 1	12月5日	採卵鶏・約31万羽	実施中
㉖	佐賀 1	12月6日	採卵鶏・約3万羽	実施中
㉗	鹿児島 6	12月7日	採卵鶏・約6万羽	実施中

家さん疾病小委員会からの緊急提言(11月28日)

- 今シーズンの疫学調査チームの現地調査結果等を踏まえるとともに、高病原性鳥インフルエンザが数多く発生していることを受け、11月28日、食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家さん疾病小委員会を開催し、専門家から、**続発を踏まえた緊急提言として、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっており、①農場敷地内や鶏舎周囲の消毒の徹底、長靴の消毒・交換、野生動物の侵入防止などの農場での対策に加え、②ため池周辺等の消毒、ため池の水抜きなどの発生地域での対策が必要との見解が示された。**
- 同日、都道府県や関係者に対して、動物衛生課長通知を发出。

【家さん疾病小委員会からの今後の防疫対応に関する緊急提言】

1. 農場での対策

- ① 鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、**適切に消毒や長靴の交換ができていないか再度確認**すること。
- ② **農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行う**こと。また、消毒はため池等の水場を意識し、その近くはリスクが高いことから、徹底して消毒を行うこと。
- ③ **猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場内に近づかないような対策**を講じること。
- ④ 開放鶏舎のみならずウインドレス鶏舎のように一見隙間がないように思われる鶏舎であっても、**飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策**を講じること。
- ⑤ 鶏舎の出入りの際に本病ウイルスを鶏舎内に持ち込むことのないよう**衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒・交換等の適正な衛生管理**が日常的になされているか再度確認すること。
- ⑥ **消毒を行う際は、長靴等の汚れを落としてから行う**とともに、消毒薬は汚れた都度、最低でも1日1回以上交換し、消毒薬が有効な状態での使用を徹底すること。
- ⑦ 長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため**鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意**すること。

2. 発生地域での対策

- ① 発生農場を中心に半径3kmの区域に設定された**移動制限区域内では、感染拡大リスクが増大**していることを念頭に行動すること。
- ② 発生農場周囲の主要道路やため池周辺等の消毒、ため池の水抜き等の野鳥対策等について**地域の関係者が一体となった取組**を徹底して行うこと。
- ③ 続発を防ぐために、国、都道府県、市町村、関係団体及び養鶏業者だけでなく、**関連事業者、地域住民が一体となってまん延防止対策を徹底**すること。

アフリカ豚熱の発生状況

- 2018年8月に中国においてアジア初の発生。その後、アジア17か国・地域まで感染が拡大。
特に、韓国では2019年9月の発生確認以来、飼養豚、野生イノシシで、徐々に感染が拡大。（直近では11月に発生）
- 東アジアでアフリカ豚熱が発生していないのは、**日本、台湾のみ**。
- 既に、我が国に違法に持ち込まれた畜産物4件からアフリカ豚熱ウイルスが分離されており、国際郵便物を含めた水際対策の強化により、事前に侵入を防止することが極めて重要。
- 万が一、野生イノシシに侵入を許した場合、豚熱と異なりワクチンがないことから、農場の飼養豚については、飼養衛生管理の向上が必要であるとともに、野生イノシシについて、死体を衛生的に処理する必要。



■ = 2005年以降OIE等に発生通報のあった国/地域

(参考) アジアにおける新規発生国数の推移

2018	2019	2020	2021	2022
1	11	1	3	1

[参考] 違反の実例



中国からの旅客に持ち込まれた違法豚ソーセージ
(感染性のあるアフリカ豚熱ウイルスを検出した事例あり)

(参考) 豚熱、アフリカ豚熱の病原性に関する比較

	伝播性	致死率
豚熱	++	+
アフリカ豚熱	+	++

伝播性：感染しやすさ（ウイルスに接触した豚のうち感染する個体の割合）
致死率：感染し、発症した豚のうち、死亡した個体の割合

出典：FLI（ドイツ連邦動物衛生研究所）作成資料

アフリカ豚熱 (ASF) 対策の強化

1 相手国から持ってこさせない

- **SNS、現地メディアを通じた注意喚起**
 - ・中国、韓国、ベトナム等の在外公館HP、Facebook、Twitter、Weiboで情報発信
 - ・家伝法違反の逮捕事例をマルチメディアニュースリリース（中国・ベトナム）
- **多言語動画の配信**（日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、韓国語）
 - ・動物検疫に関する動画をYouTubeで配信
- **航空会社等への情報提供、協力依頼**
 - ・日本向け直行便での機内アナウンス実施を依頼
 - ・一部の航空会社においては、現地の空港カウンターでポスターを掲示
 - ・国際宅配会社に協力依頼し、各社HPに持込禁止案内を掲載
 - ・JNTOが実施する旅行代理店向けのニュースレターやセミナーにおいて動植物検疫について周知、協力依頼
- **広報ポスターの掲示**
 - ・全国の空港や港などに多言語ポスター1,000枚以上を掲示
 - ・全国20以上の空海港にて、デジタルサイネージを用いた動画等による広報活動実施
- **広報キャンペーン、報道機関を通じた注意喚起**
 - ・長期休暇前や入国規制緩和等、時期に応じて空港等における広報キャンペーンを実施
 - ・日本養豚協会（JPPA）と連携したキャンペーンを実施
- **外国人技能実習生への周知**
 - ・関係機関を通じて技能実習生へ動物検疫制度を周知
 - ・植物防疫所と合同で、外国人技能実習生に対する監理団体の講習会において講義を実施



中国大使館のSNS
(Weibo)



中国の
空港カウンター
(ポスターによる案内)



広報ポスター

2 日本に入れさせない

➤ 検疫探知犬の増頭（140頭体制に強化）

- ・税関検査場内におけるトレーニングと共に、国際線が再開していない空港に配備されている探知犬については定期的に便の到着のある空港に連れてきて探知活動を実施。

➤ 畜産物の違法な持込みに対する対応の厳格化（2019年4月22日～）

- ・個人消費用やお土産用であっても、警察への通報又は告発の対象として警告書を交付
- ・違反者情報をデータベース化し、関係省庁とも連携して対応（6件9名を逮捕）

➤ 高リスク便に対する携帯品検査の重点実施

- ・リスク国に対して検疫探知犬による探知や家畜防疫官による口頭質問を100%実施

➤ ASF発生国からの豚由来畜産物の汚染状況調査

- ・2022年12月5日現在、携帯品畜産物（生に近くリスクの高い物）106件からASFウイルス遺伝子を検出（うち4件（中国・フィリピン）からASFウイルスを分離）

➤ 国際郵便物の検査を強化

- ・検疫探知犬の活用を拡大、土日を含め検査時間を拡大
- ・家畜防疫官への廃棄権限付与により検査を効率化
- ・悪質者に対し厳格に対応（1件3名を逮捕）

➤ 各空海港における靴底消毒及び車両消毒の徹底

➤ 船舶・航空機の商品残渣の適切な処理について確認・指導を実施



検疫探知犬による
探知活動

3 農場に入れさせない

➤ 野生イノシシ対策を見据えたごみ対策の協力依頼

- ・環境省及び国交省を通じて、公園でのごみ対策の協力依頼を自治体、関係部局等に通知

➤ 食品原料に由来する飼料の加熱について都道府県や生産者団体等を通じて農家に徹底

豚熱飼養豚発生県、野生イノシシ発生県、予防的ワクチン接種推奨地域

- 2018年9月9日の岐阜県での発生以来、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県及び東京都の18都県で計85事例発生し、これまでに約35.4万頭を殺処分。
- 2019年9月24日にワクチン接種を決定、10月15日に防疫指針を改訂、10月25日からワクチン接種開始。
- 2020年9月3日にOIE（国際獣疫事務局）が認定する豚熱の清浄国ステータスを消失。
- 群馬県、山形県、三重県、和歌山県、奈良県、栃木県、山梨県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県といったワクチン接種県においても発生。

飼養豚陽性発生県：赤色（ただし、斜線は、令和3年度以降発生なし。）

【18都県】（飼養頭数 2,662,550頭(全国の29.8%)）

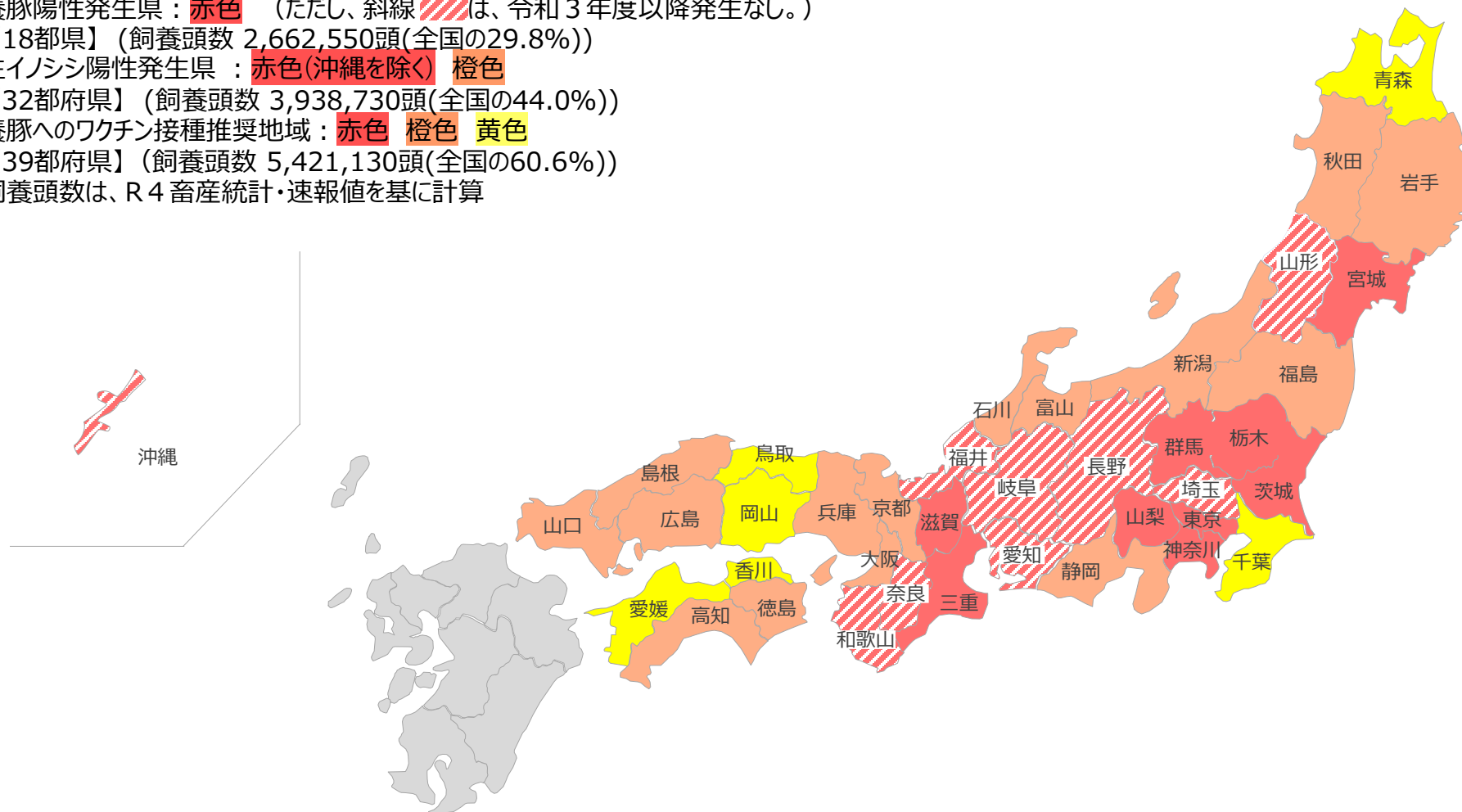
野生イノシシ陽性発生県：赤色(沖縄を除く) 橙色

【32都府県】（飼養頭数 3,938,730頭(全国の44.0%)）

飼養豚へのワクチン接種推奨地域：赤色 橙色 黄色

【39都府県】（飼養頭数 5,421,130頭(全国の60.6%)）

※飼養頭数は、R4 畜産統計・速報値を基に計算



(参考資料)

(参考) 韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年10月以降)

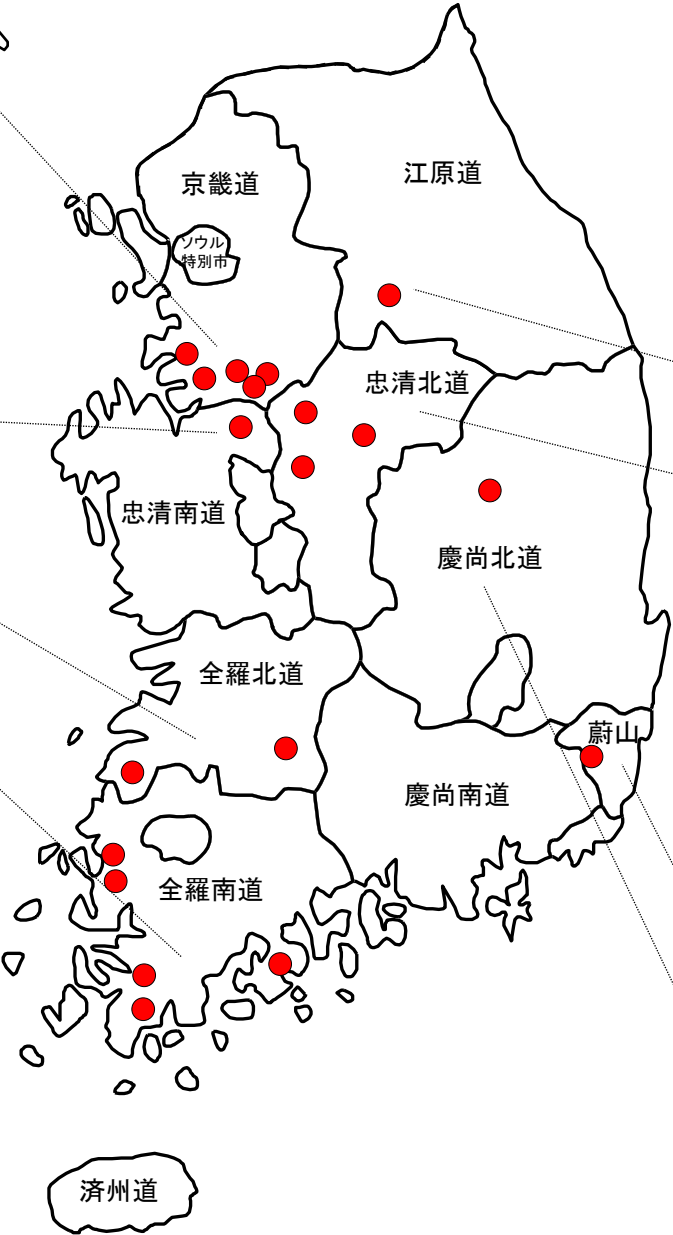
出典：韓国農林畜産食品部
※日付は症状が確認された日または検体採取日

京畿道				
2022.11.15	龍仁市	肉用種鶏	約4.2万羽	H5N1
2022.11.16	華城市	肉用種鶏	約2.4万羽	H5N1
2022.11.17	平沢市	採卵鶏	約0.6万羽	H5N1
2022.11.23	平沢市	採卵鶏	約3.5万羽	H5N1
2022.11.26	利川市	採卵鶏	約17万羽	H5N1
2022.11.29	安城市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1

忠清南道				
2022.11.9	天安市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.11.26	洪城市	観賞用鳥類	124羽	H5N1

全羅北道				
2022.11.5	淳昌郡	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
2022.12.2	高敞郡	肉用アヒル	約0.9万羽	H5N1

全羅南道				
2022.11.15	長興郡	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2022.11.22	羅州市	肉用アヒル	約7.9万羽	H5N1
2022.11.26	高興郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	採卵鶏	約5.5万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	肉用アヒル	約4.5万羽	H5N1
2022.12.1	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.2	羅州市	肉用アヒル	約2.0万羽	H5N1
2022.12.3	務安郡	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.12.3	咸平郡	採卵鶏	約40万羽	H5N1
2022.12.4	咸平郡	採卵鶏	約8.0万羽	H5 (病原性検査中)



月	事例数	殺処分羽数
10月	3	約6万
11月	24	約142万
12月	5	約45万
計	32	約193万

※農林水産省にて発生報告ごとに累計
※予防的殺処分等は含まず
※事例数等は病原性が確定した事例のみ記載

江原道				
2022.11.14	原州市	採卵鶏	約6.7万羽	H5N1

忠清北道				
2022.10.26	鎮川郡	肉用アヒル	約1.8万羽	H5N1
2022.11.3	清州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用鶏	約5.6万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.11.8	清州市	ウズラ	約49.8万羽	H5N1
2022.11.9	清州市	肉用アヒル	約2.2万羽	H5N1
2022.11.10	清州市	種アヒル	約0.4万羽	H5N1
2022.11.12	忠州市	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.11.17	清州市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1

蔚山広域市				
2022.11.28	蔚州郡	採卵鶏	約6.5万羽	H5N1

慶尚北道				
2022.10.17	醴泉郡	種アヒル	約1.0万羽	H5N1
2022.10.21	醴泉郡	肉用種鶏	約3.2万羽	H5N1

2022年12月5日現在

●：発生地点

(参考)世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)①

ヨーロッパ

アイスランド	H5N1 (高)	2022.4.15 [2022.9.22]	スウェーデン	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.5.25] 2022.2.23 [2022.10.5]	フィンランド	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.8.16] 2021.2.8 [2021.11.9]
アイルランド	H5N1 (高)	2021.12.17 [2022.10.17]		H5N5 (高)	2021.3.2 [2021.5.25]	フェロー諸島	H5N1 (高)	2022.10.14 [2022.6.18]
	H5N3 (高)	[2021.1.8]	スバルバル諸島	H5N5 (高)	2021.4.19 [2021.10.13]	フランス	H5N1 (高)	2022.10.20 [2022.10.19]
アルバニア	H5N8 (高)	[2021.1.29]	スペイン	H5N1 (高)	[2022.6]		H5N8 (高)	2021.4.26 [2021.9.11]
	H5N1 (高)	[2022.3.18]		H5N8 (高)	2022.9.17 [2022.10.21]		H7N7 (高)	[2021.9.14]
イタリア	H5N1 (高)	2022.3.23 2022.10.21 [2022.10.12]	スロバキア	H5N1 (高)	[2021.1.26]	ブルガリア	H5N3 (低)	2021.3.9
	H5N8 (高)	2021.2.19 [2021.2.1]		H5N5 (高)	2022.5.24 [2022.2.7]		H5 (高)	2022.6.9
ウクライナ	H7N7 (低) H5 (高)	2021.1.29 2021.12.12 [2021.4.2]	スロベニア	H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.1.15]		不明 (高)	2022.10.21 [2022.4.8]
	H5N8 (高)	2021.2.16	セルビア	H5N1 (高)	[2022.10.19]	ベルギー	H5 (高)	[2022.7.8]
英国	H5N1 (高)	2022.10.20 [2022.10.20]		H5N2 (高)	[2021.11.13]		H5N1 (高)	2022.10.21 [2022.10.19]
	H5N3 (高)	[2021.1.14]	チェコ	H5N8 (高)	[2021.9.26]		H5N5 (高)	2021.1.26
	H5N8 (高)	2021.3.21 [2021.11.7]		H5 (高) H5N1 (高)	[2021.10.8]		H5N8 (高)	[2021.8.31]
エストニア	H5N1 (高)	2022.3.18 [2022.3.18]		H5N5 (高)	2021.9.27 2022.4.13 [2022.1.29]	ポーランド	H5N1 (高)	2022.9.20 [2022.7.14]
	H5N8 (高)	2021.10.21 [2021.9.27]		H5N8 (高)	[2021.2.24]		H5N2 (高)	2022.2.28
オーストリア	H5N1 (高)	2022.1.20 [2022.4.8]	デンマーク	H5 (高) H5N1 (高)	2021.5.17 [2021.4.19]		H5N5 (高)	[2021.1.31]
	H5N5 (高)	[2021.2.25]		H5N3 (高)	2021.10.30 2022.3.28 [2022.10.25]	ポルトガル	H5N1 (高)	2021.8.9 [2021.6.17]
オランダ	H5N8 (高)	[2021.4.27]		H5N5 (高)	[2021.4.29]			2022.9.28 [2022.9.16]
	H5N1 (高)	2022.10.15 [2022.10.7]		H5N8 (高)	[2021.3.19]	ボスニア・ヘル ツェゴビナ	H5N1 (高)	[2021.11.1]
	H5N3 (高)	[2021.1.4]	ドイツ	H5N1 (高)	2022.1.6 [2022.1.3]	モルドバ	H5N1 (高)	2022.8.6
	H5N4 (高)	[2021.3.4]		H5N3 (高)	2022.10.16 [2022.9.30]		不明 (高)	2022.5.13
	H5N8 (高)	2021.5.21 [2021.12.1]		H5N4 (高)	[2021.12.22]	モンテネグロ	H5N1 (高)	[2022.4.4]
北マケドニア	H5N1 (高)	[2022.2.17]		H5N5 (高)	[2021.4.16]	ラトビア	H5N1 (高)	[2022.1.17]
ギリシャ	H5N1 (高)	2022.4.18 [2021.3.30]		H5N8 (高)	2021.3.4 [2021.3.10]		H5N8 (高)	[2021.3.16]
クロアチア	H5N1 (高)	2022.5.25 [2022.2.9]			2021.6.23 [2021.7.1]	リトアニア	H5N1 (高)	[2022.6.23]
	H5N8 (高)	[2021.3.14]	ノルウェー	H5 (高)	2021.11.16 2022.10.20 [2022.8.10]	リユニオン	H5N1 (高)	2021.6.2 [2022.6.23]
スイス	H5N1 (高)	2021.11.23 [2022.3.7]		H5N1 (高)	[2022.7.7]		H7N7 (高)	[2022.10.12]
	H5N4 (高)	[2021.2.4]	ハンガリー	H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.7.29]	ルクセンブルク	H5N1 (高)	[2022.2.4]
				H5N5 (高)	2022.6.7 [2022.5.30]		H5N8 (高)	[2021.9.3]
				H5N8 (高)	[2021.2.23]	ルーマニア	H5N1 (高)	2022.3.26 [2022.3.17]
					2021.2.1 [2021.3.2]		H5N5 (高)	[2021.2.19]
							H5N8 (高)	2021.5.13 [2021.1.13]

※日付は発生日又は検体回収日に基づく

※[]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す

※本図は発生の有無を示したもので、

その後の清浄性確認については記載していない

※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等

(参考)世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)②

南北アメリカ

米国	H5 (高)	[2021.12.30]
	H5N1 (高)	2022.10.19
		[2022.10.6]
カナダ	H5N3 (低)	2022.1.5
	H5N1 (高)	2022.10.14
メキシコ		[2022.10.14]
	H7N3 (高)	2022.4.21
	H5N1 (高)	[2022.10.11]
コロンビア	H5N1 (高)	[2022.10.5]

アジア

中国	H5N1 (高)	[2022.7.9]
	H5N6 (高)	[2021.4.8]
	H5N8 (高)	[2021.6.11]
韓国	H5 (高)	[2021.12.1]
	H5N1 (高)	2022.10.26
		[2022.3.24]
		2021.4.6
	H5N8 (高)	[2022.1.24]
		[2021.11.23]
	H5N2 (低)	[2021.12.9]
	H5N3 (低)	[2021.12.16]
	H5N8 (低)	[2021.11.1]
台湾	H7N7 (低)	[2021.12.16]
	H7N9 (低)	[2021.11.2]
	H5N1 (高)	[2022.5.24]
	H5N2 (高)	2022.7.12
		[2022.2.23]
	H5N5 (高)	2021.12.16
香港		[2021.1.11]
	H5N1 (高)	[2022.1.21]
	H5N8 (高)	[2021.1.28]
インド	H5N1 (高)	2022.3.30
		[2021.11.18]
	H5N8 (高)	2021.3.15
イラン		[2021.11.28]
	H5N5 (高)	2021.12.11
	H5N8 (高)	2021.6.9
イスラエル		[2021.11.28]
	H5N1 (高)	2022.1.9
		[2022.1.27]
ネパール	H5N8 (高)	[2022.5.6]
	H5N1 (高)	2022.6.3
		[2022.2.22]
フィリピン	H5N8 (高)	2021.5.22
	H5N1 (高)	2022.7.25
	H5N8 (高)	2022.2.28
ベトナム	H5N1 (高)	2022.10.14
	H5N6 (高)	2021.8.26
	H5N8 (高)	2021.12.22
ラオス	H5 (高)	2021.8.29
	H5N1 (高)	2021.1.5

中東

イラク	H5N8 (高)	2022.6.6
クウェート	H5N8 (高)	2021.3.19
アフガニスタン	H5N8 (高)	2021.2.7
パキスタン	H5 (高)	2021.11.25
	H5N8 (高)	2021.8.5

ロシア・NIS諸国

ロシア	H5 (高)	2021.12.1
		[2022.3.15]
	H5N1 (高)	2022.8.12
		[2022.10.10]
	H5N5 (高)	[2021.3.30]
	H5N8 (高)	2021.1.27
カザフスタン		[2021.1.5]
	H5 (高)	2021.9.28
		[2022.6.19]

アフリカ

南アフリカ共和国	H5 (高)	2021.5.13
	H5N1 (高)	2022.10.4
		[2022.5.23]
	H5 (低)	2021.7.14
		[2021.7.5]
	H5N2 (低)	2021.3.25
セネガル	H7 (低)	2021.2.4
	H5N1 (高)	[2022.1.25]
		[2022.1.22]
ナイジェリア	H5N1 (高)	2022.4.26
モーリタニア	H5N1 (高)	2021.1.27
アルジェリア	H5N8 (高)	2021.1.17
		[2021.2.22]
ニジェール	H5N1 (高)	2022.1.12
マリ	H5N1 (高)	2022.3.3
	H5 (高)	2021.5.28
レソト		
トーゴ	H5N1 (高)	2022.1.1
	H5 (高)	2021.6.26
ガーナ		
コートジボワール	H5N1 (高)	2021.11.21
	H5 (高)	2021.7.27
ベナン		
	H5N1 (高)	2021.10.5
ボツワナ	H5N1 (高)	2021.7.24
カメルーン	H5N1 (高)	2022.1.29
ナミビア	H5N1 (高)	[2022.2.2]
ブルキナファソ	H5N1 (高)	2021.12.15
ギニア	H5N1 (高)	2022.5.10

※日付は発生日又は検体回収日に基づく
 ※[]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す
 ※本図は発生の有無を示したもので、
 その後の清浄性確認については記載していない
 ※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等